

誌を配架する方向であり、さらに喫茶スペースでお茶などを提供し、人が集まりやすく、みんなが自由にくつろげるたまり場をつくります。

▷キッズルーム

・ふれあい広場から中の様子が伺える位置とし、子どものエネルギーをみんなで共有するとともに、温かくその活動を見守る配慮としています。

・床暖房を導入する予定であり、子どもたちが存分に活動できるようにしています。

▷創作室

・災害時の炊き出しも想定し、ガス流し台を設置。西側駐車場に面しているため、大屋根の下で屋外と一体的な利用も可能です。

・床は土間としているため、少々の荒い利用や、汚れものの作業でも大丈夫です。

▷事務室

・メインエントランスを入ってすぐの分かり易い位置とし、東西南北の十字の中心になる位置に配置し、来館者に分かりやすい施設にしています。また、事務室という名称よりはサービスセンターとして市民が気軽に声を掛ける雰囲気を目指します。

▷市民活動支援センター

・自治会活動やNPO 団体など村のさまざまな活動を支援したり、各種団体の活動状況やサークル案内など人通りの最も多い面に配置し、来館者への情報発信や新たな発見、交流につなげます。

▷中会議室・和室

・中会議室と和室は土足禁止とし、和室と一体的に利用したり、寝転がったり、軽運動ができるようになっています。

・和室は着付けやお茶会などでの利用はもとより、畳のもつ柔らかさ、ぬくもりなどからママ友の会などの利用もあるでしょう。

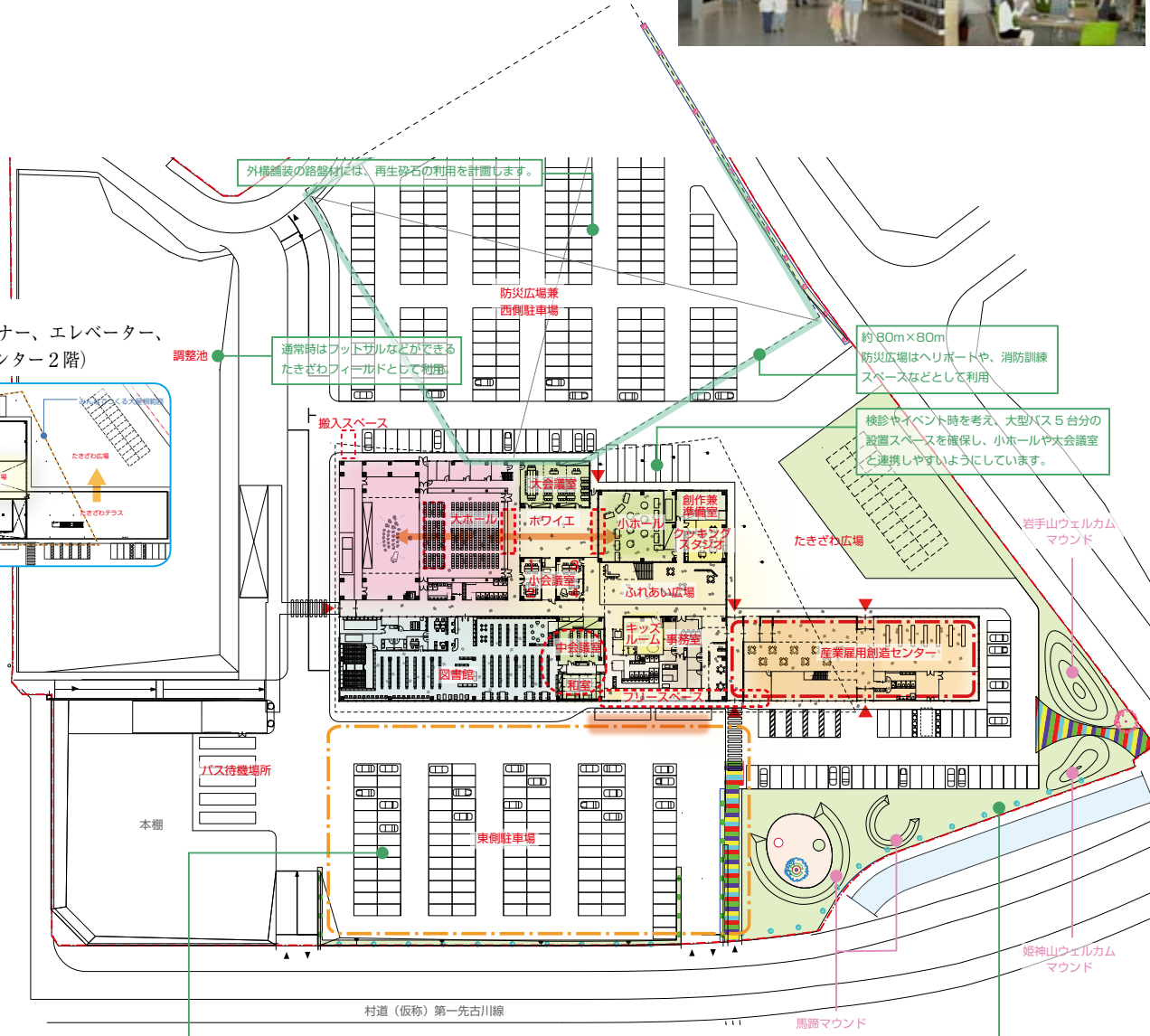
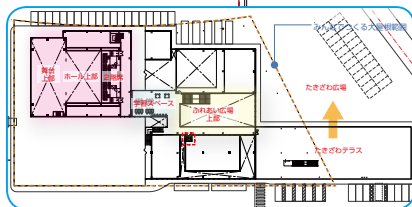
また、中会議室と和室との間には、給湯設備も設置します。

・中会議室と和室を図書館のそばに配置し、子供たちに読み聞かせができる場を作りました。



【2階】

ホール2階席、学習コーナー、エレベーター、テラス（産業雇用創造センター2階）



国土交通省で施行している復興支援道路（新川目トンネル）の残土を利用し、盛土を行うことで敷地全体から段差をなくしたフラットとし、バリアフリーに配慮しています。駐車場からもスロープなしてアクセスできます。

・見やすいサイン計画、トイレのブースの大きさを一部広げるなどの対応により、効果的にユニバーサルデザインの採用を行います。
・施設の中でも特に子供の利用が多いと思われるキッズルームを中心に、お子様連れでも安心の授乳室、子供専用トイレを配置しています。

滝沢村の季節を彩る植栽を配置し、「歳時記の景」を創ります。管理面に配慮し、水辺空間の新設は見送り、水路に面した親水空間とします。水路に面して馬蹄マウンドなどの滝沢村のアイデンティティをイメージする空間を創ります。

平成 24 年 7 月「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」で選定された案を基に、建設推進委員会や建設推進プロジェクトチーム会議、全体ワークショップ、個別部会などで議論を重ね、皆さんの意見を極力取り入れて、基本設計（案）をとりまとめました。滝沢のシンボルとして岩手山の稜線をイメージした「みんなで作る大屋根」の実現に向け、今後、実施設計を進めます。

今回と 8 月 5 日号の 2 回にわたり、概要をお伝えします。

正式な概要版や詳しい図面などは、村のホームページをご覧ください。

●問い合わせ 交流拠点整備室（内線 398・399）

交流拠点 複合施設



▷小会議室

・近年ではサークル活動など少人数で活動している人も多く、施設の中でも利用率の高い部屋になると思われます。最も利用率の高い部屋だからこそ、みんなから注目され、施設全体が生き生きとした雰囲気になるよう、この位置になりました。

・小会議室 1・2 はミーティングやボランティア活動、サークル活動の控室として利用可能な計画としました。

・小会議室 3・4 は窓のついた部屋で防音性も高め、楽器演奏などのアクティブな活動がふれあい広場からも感じられるような計画としました。

▷大ホール

・大ホールのホワイエ側の壁面と小ホールのホワイエ側の壁面を可動式の間仕切りとすることで一体的な利用ができるよう計画しました。

・このことにより、3つの空間を一体的に利用したイベントが可能となるほか、大ホールは1次会場、ホワイエ、小ホールは2次会場と壁の区切り方で色々な空間構成がつけられ、みんなのさまざまな活動に対応できるようになりました。

・大道具がスムーズに出入りできる搬入スペースを設置します。

・女子トイレは、できるだけ多く配置してほしいという声を受け、大き

なイベント時には男子トイレを女子トイレとして利用できるように、小便器と区切れるよう工夫しています。

▷図書館

・静と動を考え、動については、入り口付近の少しざわついたコミュニケーションができる図書館として、静については空調・共用部でのイベントの騒音に配慮し、視認性の高いガラスの窓が入ったパーティションで間仕切る対応を行いました。

・児童コーナーはふれあい広場側に配置することで、寝転んで絵本を楽しむスペースを確保し、ふれあい広場や会議室などから子どもたちの活動をみんなで受け取ることができます。また、図書事務室からも子どもたちの様子が伺える位置に児童コーナーを設けました。

・一方、読書に集中したい人は、にぎやかなふれあい広場から離れた奥の方に閲覧室を設け、明るい窓際でゆっくりと閲覧できるようにすると共に、本棚は日差しを避ける為、奥に配置しました。

・図書館の管理面の使い勝手から、本修理スペースや多目的室を設置することになりました。

・図書館への RFID (IC タグ) の導入による自動貸し出し機や IC ゲートによる効率的な図書館運用を検討中です。

▷小ホール

・建物内外での利用も踏まえ、西側に配置しました。

・軽運動やダンスといった活動から、講演、会議、展示会などまで幅広く利用できる部屋で、最も利用頻度の高い部屋となるでしょう。

・クッキングスタジオに隣接することで、ちょっとした会合やパーティなどができるようにしています。

▷大会議室

・大会議室は一室で約 70 人利用でき、3分割により、各部屋 26 人程度の会議室としても利用できます。また、大ホールや小ホールの控え室として利用することが可能なよう、それぞれの間に位置しており、一つの部屋が色々な用途に使えるようになりました。

▷産業雇用創造センター

・観光案内所や特産品展示スペース、産直、レストラン、加工施設、休憩コーナー、トイレなどで構成します。

▷緑地

・滝沢村の季節を彩る植栽を配置し、「歳時記の景」を創ります。管理面に配慮し、水辺空間の新設は見送り、水路に面した親水空間とします。水路に面して馬蹄マウンドなどの滝沢村のアイデンティティをイメージする空間を創ります。

▷クッキングスタジオ

・たきざわ広場とふれあい広場、産業センターとの連携を踏まえ、この位置に配置しました。

・ふれあい広場に面してはガラスの窓を作り、調理実習や各種イベント、会合などのアクティビティが感じられるようにし、調理実習のみならず、イベント時、会合時の調理室やお菓子作りなどに利用できます。

また、誰でも気軽に利用できるよう、明るいカラーを用い、テーブルを中心に配置したレイアウトを計画しています。

▷ふれあい広場

・大階段を設け、人の活動が外からも感じられる場としました。階段は、メイン通路の分かり易い場所に配し、2階へのアクセスを行いやすくしました。

・図書館との連携により、新聞や雑